

同羅 (Tongra) といふものは鐵勒九姓中の同羅部の一部が、安祿山の軍中に收められたるものを指せるものにして、唐書同羅傳に「安祿山反、劫其兵用之、號曳落河、猶言健兒」と記し、同書安祿山傳には「養同羅降奚契丹曳落河八千人云々」と記せり、唐書回鶻傳には前に掲げたるが如く、此の時可汗自ら將として唐を助けたりと記せども、郭子儀傳には此の事件に關して回紇首領葛邏支といふものの名を擧げて、可汗自からの來援を記さず、舊唐書史思明傳によれば、此の時回鶻の軍は先づ范陽を襲ひ、然る後轉じて太原地方に出で、郭子儀と合したるものなるが如く、賊將尹子奇が五萬の衆を以て河を渡り、更に江淮地方に向はんとするや、「會迴紇二千騎奄至范陽、范陽閉門二日、然後向太原、子奇行千里、以救之」と記せり、而して茲にも亦回鶻可汗が自ら其の軍を統べたる記事を認むる能はず、此の翌年回鶻が大軍を發して唐を援くるに當りても、次に述ぶるが如く、可汗は尙自ら其の軍に従はず、其の子をして之を率ゐしめたるに鑒むれば、此の時に於ても、亦其の部將をして唐を援けしめたるものと見るを以て當れりとすべし、されば通鑑が至德元年十月の條に、こゝに述べたる尹子奇の行動を敘したる續きに「會回紇可汗遣其臣葛邏支、將兵入援、先以二千騎、奄至范陽城下云々」と記せるは、思ふに當を得たるものなりとす。

此の如く回鶻が唐の爲に力を盡し、は、既に肅宗即位の年なる至德元年に生まれりと雖、此の時の援助は未だ以て賊勢を摧くにば至らず、其の能く兩京を奪ひ、唐の國運を復するに至りしものは、實に此の翌至德二年九月、磨延啜の子葉護が四千騎に將として入援したるによれり、至德元年以來回鶻の外にも于闐の尉遲勝は兵五千を率ゐて來援し、又安西・北庭・拔賀那・大食諸國の兵も來りしが、然も當時最も精銳の軍として唐が望を囑し、又賊の怖れ